

マーケット概況（2023年3月）

3月の債券相場は、米国の利上げ長期化観測を背景に売り優勢で始まった。その後も20年183回債の利回りが1.265%まで上昇するなど超長期債中心に軟調な展開が続き、イールドカーブはベアスティープ化した。日銀金融政策決定会合での政策修正に対する警戒感が高まったことから、債券先物6月限は144円93銭まで下落したが、結果が現状維持となると債券相場は買い戻された。さらに、米国中堅銀行のシリコンバレーバンク破綻に端を発した金融システム不安を背景に10年369回債は2022年11月24日以来となる0.240%まで、20年183回債は同年9月15日以来となる0.905%まで利回りが低下した。UBSによるクレディ・スイス・グループの救済合併は成立したものの、リスクオフ地合いは継続し、債券先物6月限は149円53銭まで上昇した。その後は40年債入札に向けた調整などから全年限で利回りが上昇する場面もあったが、28日の40年債入札が順調な結果となると超長期債中心に買われ、イールドカーブはフラット化した。金融システム不安に対する過度な警戒感が後退したことで長期金利は上昇し、10年369回債は0.320%で取引を終了した。

<短国市場>

3M金利は-0.18%台でスタートしたが、月中旬には需給環境が好転し-0.2%台後半で推移した。9日の3M1144回債入札では、償還日が海外休場日となることから海外投資家需要が剥落し-0.16%台での着地となったが、月中旬以降の入札では、年度末の担保需要や金融不安への警戒感から待避的な買いが入り、最高落札利回りが-0.22%台へ低下し、最終的に-0.280%で取引を終えた。6M・1Yは投資家の担保需要が根強く、入札は順調に通過した。6M金利は一時-0.170%、1Y金利は-0.160%まで低下する場面もあったが、期末を控え投資家需要が徐々に限定的となると、金利は小幅上昇し最終的に6M1143回債は-0.150%、1Y1145回債は-0.160%で月内の取引を終えた。

<一般債市場>

10年国債のイールドカーブの歪みが依然として解消されないなか、10年地方債は10年国債369回債比で前月比同水準の+25.0bp、5年地方債も前月比同水準の国債カーブ+12.0bpで条件決定した。10年地方債は金利を巡る先行き不透明感はあるものの、クーポン利率の上昇が好感されたことや年度末の積上げ需要等から順調に消化、5年地方債も投資家需要を背景に無難に消化された。既発債は世界的にクレジットリスクの高まりを受けて、水準やスプレッドの調整が意識された。SDGs債関連では、JICAが初めて2年債としてソーシャルボンドを発行した。社債は、大型の案件は少なかったが、発行銘柄数が大幅に増加し、発行額は1兆2391億円(前年同月比+142%)と前月から小幅増加した。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#369	0.500(1日)	0.240(14日)	0.505(3日)	0.320(31日)
#368	0.120(1日)	-0.035(10日)	0.240(28日)	0.160(31日)
#359	0.420(1日)	0.165(27日)	0.490(9日)	0.230(31日)
#156(5Y)	0.190(1日)	0.060(20日)	0.225(10日)	0.090(31日)
#183(20Y)	1.145(1日)	0.905(14日)	1.265(9日)	1.010(31日)
#1137-#1143 TDB(6M)	-0.170(8日)	-0.170(8日)	-0.150(31日)	-0.150(31日)
#1141-#1147 TDB(3M)	-0.200(9日)	-0.285(17日)	-0.190(9日)	-0.280(24日)